

大賞「書き出し」 立教池袋高等学校

- 1 鉄塔に深き傷跡春の蝶 赤松 優
- 2 綴るごとくに薄氷の出来上がる 藤井 万里
- 3 廃校舎いま春塵の部屋となる 杉浦 拓隼
- 4 春炬燵この恋文を捨てられず 岡部 優司
- 5 校庭の砂利硬かりし風光る 赤松 優
- 6 気苦勞を桜が隠しゐる通り 三宅 爽太
- 7 小満や傘より腕のつめたくて 藤井 万里
- 8 折り紙はしづかに力み立葵 藤井 万里
- 9 うつすらと亀に唇ある夜涼かな 藤井 万里
- 10 ほそぼそと蕎麦屋のつづく夾竹桃 辻村 幸多
- 11 感想の難し帰省子の知育菓子 岡部 優司
- 12 花よりも水透きとほる昼寝寛 杉浦 拓隼
- 13 書き出しのとみに定まる夜食かな 辻村 幸多
- 14 山粧ふ脚立を出してゐる隣家 赤松 優
- 15 吸ひ殻はみな火の犠牲きりぎりす 辻村 幸多
- 16 鈴虫や地盤のゆるき町の昼 赤松 優
- 17 猛犬の尾のなまぐさき野分かな 藤井 万里
- 18 乾ききる前の小径や金木犀 赤松 優
- 19 ねんねこや板チョコの割れ目は斜め 三宅 爽太
- 20 ネギは剣子につはものの目があれば 三宅 爽太
- 21 みどりごの柚子湯を猫に覗かるる 辻村 幸多
- 22 電器屋の列にぎやかにクリスマス 岡部 優司
- 23 福引の当たらぬが身の丈にあふ 杉浦 拓隼
- 24 凍滝をとほく校倉造かな 辻村 幸多
- 25 異国語の飛ぶ一月の池袋 岡部 優司

メンバー..

- 辻村 幸多 (つじむらこうた・一年)
赤松 優 (あかまつまさる・一年)
岡部 優司 (おかべゆうじ・一年)
三宅 爽太 (みやけそうた・一年)
杉浦 拓隼 (すぎうらたくと・二年)
藤井 万里 (ふじいばんり・三年)

奨励賞「火やつかむ」 海城高等学校

- | | | |
|----|------------------|------|
| 1 | その終わりまた蜘蛛の囀の始めたり | 住谷拓明 |
| 2 | 陶枕の虎や眼のまるまると | 南幸佑 |
| 3 | 秋蟬や柵の錆びたる海の町 | 住谷拓明 |
| 4 | 太刀魚の大きくしなる腕の中 | 南幸佑 |
| 5 | 猫じやらし遊び足らずに死んでゆく | 日高一樹 |
| 6 | 入浴剤割つて小窓の秋入日 | 関友之介 |
| 7 | 手に鍵が揺れて流星群の夜 | 蔣騰 |
| 8 | 冬銀河その譜は未完かもしれず | 日高一樹 |
| 9 | 餌に集く鯉の間抜けを霰かな | 南幸佑 |
| 10 | 初凧や鳥居にしぶく波の音 | 住谷拓明 |
| 11 | 打つ独楽の刹那にはやし火やつかむ | 日高一樹 |
| 12 | 惰行する寒夜急行床の缶 | 深見啓太 |
| 13 | 湯煙に隠るるほどの嚏かな | 住谷拓明 |
| 14 | 樹々凍てておの／＼に貌ありにけり | 関友之介 |
| 15 | 数羽の鳩白し寒暁広がりぬ | 蔣騰 |
| 16 | 薄氷をそつと叩き割ろうとする | 深見啓太 |
| 17 | 右折する車が二列春の嵐 | 蔣騰 |
| 18 | 三月や浅草濡らす天気雨 | 関友之介 |
| 19 | また今日も話せなかつた半仙戯 | 深見啓太 |
| 20 | 卒業子いつまでも手を見てゐたり | 南幸佑 |
| 21 | 春燈やまた倒しみる不倒翁 | 住谷拓明 |
| 22 | 犬小屋に戸のなかりけり麦の秋 | 南幸佑 |
| 23 | 悔いのごとくラムネの玉のみづ色は | 日高一樹 |
| 24 | 魚屋の釣銭濡れて城ヶ島 | 関友之介 |
| 25 | 檻の獅子空蟬を踏み毀ちたる | 蔣騰 |

メンバー..

蔣騰(しょうとう・一年)

住谷拓明(すみたにひろあき・一年)

日高一樹(ひだかかずき・一年)

関友之介(せきとものすけ・二年)

深見啓太(ふかみけいた・二年)

南幸佑(みなみこうすけ・二年)

奨励賞「風の記憶」 神奈川県立横浜翠嵐高等学校

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1 | 自転車の籠に斜めや麦わら帽 | 岡本伊万里 |
| 2 | 水鉄砲打って打たれて濡れし髪 | 相原乙葉 |
| 3 | 傘閉じて伸びをしてこの梅雨夕焼 | 福田彩月 |
| 4 | 握りたる切符の黒き面に汗 | 岡本伊万里 |
| 5 | シャーペンをまた持ちかえて日の盛 | 福田彩月 |
| 6 | 夏深し机合わせて千羽鶴 | 岡本伊万里 |
| 7 | 七十六年前の空にも蝉の声 | 岡本伊万里 |
| 8 | 中敷のロゴ消えかけて夏の果 | 岡本伊万里 |
| 9 | 初秋のイヤホン越しの風の音 | 相原乙葉 |
| 10 | 畳踏む素足の指に秋の風 | 福田彩月 |
| 11 | 祖母の家の匂いと思う零余子飯 | 福田彩月 |
| 12 | 自転車を並べて歩く秋の夕 | 相原乙葉 |
| 13 | 演説の襷の肩に来る蜻蛉 | 岡本伊万里 |
| 14 | 螻蛄を掲げて君は無敵なり | 相原乙葉 |
| 15 | シュート決め掲げた拳秋高し | 相原乙葉 |
| 16 | 秋うらら廊下に友の背を叩く | 福田彩月 |
| 17 | 誰もいぬ電話ボックス秋の風 | 相原乙葉 |
| 18 | 水飲みしあとの舌先冬近し | 福田彩月 |
| 19 | 冬めくや鳥居を栗鼠の駆け抜けて | 相原乙葉 |
| 20 | 寒風や鳩立つ池にのぼり旗 | 相原乙葉 |
| 21 | 冬夕べいつも金星探す癖 | 福田彩月 |
| 22 | すきま風ちらりと猫の尾の見えて | 酒井美穂 |
| 23 | 鍵盤を沈めて指のかじかめる | 酒井美穂 |
| 24 | 遊歩道聖夜の明かり途切れなく | 相原乙葉 |
| 25 | 目を落とす液晶氷る君来ぬ夜 | 酒井美穂 |

メンバー：

福田彩月（ふくださつき・二年）

酒井美穂（さかいみほ・二年）

相原乙葉（あいはらおとは・一年）

岡本伊万里（おかもといまり・三年）